

# 知的財産立国問題の流れ

年代	社会トピックス	裁判関係
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">産業立国</div>	
1990 前半	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">バブル崩壊</div> <p>国際競争力低下 起死回生の起爆剤の必要性</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ものづくり→知恵づくりへの転換</div>	
後半	<p>知的財産に注目が集まり始める</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">産業界からの批判が特許庁や裁判所に集中</div> <p>日本の「特許制度の空洞化」とか「特許訴訟の空洞化」などの批判が一部の評論家やマスコミなどで取り上げられるようになる</p>	1996(H8) 民訴法改正
1998	<p>自民党商工部会知的財産政策小委員会による提言 特許法改正(これ以降, 特許法改正が頻繁になされる)</p>	
2001. 6	<p>司法制度改革審議会意見書</p>	
12	<p>司法制度改革推進本部 設置</p>	
2002. 2	<p>小泉総理 施政方針演説</p>	
3	<p>知的財産戦略会議 発足</p>	
7	<p>知財戦略大綱 決定</p>	
10	<p>知的財産訴訟検討会 設置</p>	
2003. 3	<p>知的財産基本法 施行</p>	2003(H15) 民訴法改正
	<p>知的財産戦略本部 発足</p>	
7	<p>知的財産推進計画 決定</p>	2004(H16) 知的財産高等裁判所設置法 裁判所法等の一部を改正する法律